

＜白金標準先物は 4524 円に向けた上昇過程＞



ゴールデンウィーク中に NY 白金が 1200 ドルから 1250 ドルを超える値動きを行い、白金標準先物も連休以前の 4213 円から週末には一時 4423 円まで高値を試すなど、銅価格や PGM 価格の上昇に追随した動きを見せている。週末の雇用統計の発表は景気商品の白金には悪影響を示しているが、NY 白金は 1250 ドルを維持するなど、1200 ドルを固めた動きに思える。特に 5 月には生産国南アフリカで国営電力会社エスコムの賃金交渉を控え、最大の労働組合 NUMSA は 15%の値上げを要求し、事実上の債務超過のエスコムが合意する可能性は低く、ストライキの懸念が高まると電力不足に拍車を掛ける可能性が高い。

また 5 月 31 日～6 月 4 日まで上海プラチナ・ウィークが開催され、JM 社の需給報告がなされた場合は供給不足を再確認する事になるため、4200 円を割り込む可能性は低く、強気を維持して対応するのが妥当と思える。
 (2021 年 5 月 9 日記載)

＜テクニカル＞

相対力指数（9 日）で見ると貴金属における相対力指数の見方の特徴で強弱の分岐点である 50%を相対力指数が上回っており、現在における白金標準先物は強気の域と思える。また相対力指数の高値を結ぶ下降ラインを相対力指数がブレイクする間際であり、昨年 11 月や今年 2 月の上昇時に発生したサインと同様な動きを示しており、4300 円台は新規買いを多様化するのが妥当と思える。